

# インキと共に半世紀 インキの付加価値を高め、 新たな可能性へ挑戦し続ける

成東インキ製造

成東インキ製造(世田谷区船橋、出川秀敏社長、03・3329・0171)は、1941年に創業して以来、特殊インキ・紫外線硬化型インキ・コーティングニス・ドライオフセットインキの製造、販売を行っており、インキメーカーや印刷関連材料の販売の他、1997年よりDTPシステム化に伴い、プリプレスシステムの販売も開始、営業部門では東洋インキ製造(株)の全製品の取扱地区代理店であり、DIC(株)を始めとするインキメーカー製品の販売も扱っており、富士フイルム(株)他、多くの取引会社を有している。

インキ製造は印刷業界の動向に大きく左右され、その印刷業界

はデジタル化の波にさらされている。そのような中、同社はインキを卸販売するだけではなく、新しい技術への挑戦や、印刷技術に応用した新製品や新事業を顧客に提案することによってインキの付加価値を高めてきた。「成東インキなしではできない」というニーズを生み出す努力を怠らない。

新しい分野へも挑戦している。一昨年起こった東日本大震災の際にテレビ画面に映し出された津波警報の地図の配色は、色弱の人々にとっては認識しづらいものであった。こうした声に応えるべく、同社はインキ製造・販売の枠を超え関連会社と協同して「配色のユニバーサルデザイン」にも取り組む方針だ。



色の整合工程。熟練の技術で色を合わせている



現在開発中の伸縮性に優れたインキ

出川社長が最も大事にしていることとして、「顧客を大切にするために社員一人ひとりの能力を活かす」という方針があり、社員には自由な発想・発言を期待しており、月に一回は製造部門と販売部門全員が参加する技術勉強会も開いている。常に挑戦し続ける同社の社員一人ひとりの力が、未来への発展を切り拓く。